

テ敬語の一種〈テデス〉の変遷

（『言語の研究』9号）
2021年9月）

宮崎 遥河

1. はじめに

筆者の出身地域である兵庫県播磨地域では、「来てです」のように【動詞の連用形+助詞の〈て〉+助動詞〈です〉】の語形で、尊敬または上向きの待遇を表す方言がある。

これは、「来てや」・「来てじゃ」のような「動詞の連用形+助詞の〈て〉+指定辞⁽²⁾」という語形⁽³⁾のテ敬語と呼ばれる尊敬または上向きの待遇を表す方言の一種である。

〈テデス〉の語形についての体系的な言及は管見の限り見られないが、テ敬語については多くの文献で見られる。テ敬語の変遷について先行文献から簡潔にまとめると以下の通りである。

- ・テ敬語は、近世以降の時代に上方・西日本地域と江戸/東京地域の2地域で見られる。
- ・上方・西日本地域においては、近世前期からその語形が見られ（湯沢1936）、近世後期に下るにしたがって次第に多く使用されるようになる（矢野1978a）。明治時代に京都・大阪では待遇価値が減少し（金沢1992）、身内尊敬用法によく見られる（辻2009）。遊郭関係者等女性の使用が多いが、男性の使用も見られる。昭和期には全国的な方言調査から、北陸地方の一部、近畿地方北部、中国地方のほぼ全域、九州地方北部でテ敬語が見られたことが明らかになった（藤原1978, 国立国語研究所2006）。
- ・江戸/東京地域においては、近世後期にテ敬語が見られ、「かなり上品な言葉づかいの女性」等、限定的な層で使用されていた語であった（土屋1986）。一時的に上方から流入した語であると考えられ、明治期から昭和期に江戸/東京地域を描いた小説での使用は、「効果狙い」であると考えられている（村中2006）。

本稿は、〈テデス〉を使用する方言のネイティブ話者である筆者が、近世から現代までの言語資料を用いて、〈テデス〉の通時的な変遷について明らかにすることを目的とする。

調査対象とする言語資料は、（1）『千歳松の色』、（2）青空文庫、（3）日本語諸方言コーパス、（4）地方会議録の4資料である。

〈テデス〉の変遷について調査するにあたり、以下の5つの観点について特に注目したい。

- ①使用されている地域
- ②発言者の性質（性別や所属する集団等）
- ③素材尊敬用法・対者尊敬用法のどちらとして使用されているか
- ④使用されている動詞の傾向【動詞+〈テデス〉】
- ⑤補助動詞・助動詞等が使用されているか否か、また、使用されている場合の傾向【動詞+

補助動詞・助動詞等 + 〈テデス〉】

尚、本調査では以下の例はテ敬語の〈テデス〉に該当しないと判断し除外した。

- ・「てです」を含む文節が間投助詞的に使用されているもの（「ですね」「ですよ」などを「ね」・「よ」と置き換えて文章の意味が変化しないもの）
- ・「てです」に前接する動詞が名詞的に使われているもの（「て」と「です」の間に「のこと」等の名詞を補って文章が成立するもの）
- ・発言者・会話の相手・敬意の対象が資料中で明かされていないもの

このスキヤニングは作者の自省で行い、日本語母語話者（西日本方言話者でない）20代女性3名にダブルチェックをお願いした。

尚、「てです」に類似した表現である「てんです」は本稿では扱わない。

引用文中の下線は全て筆者によるものである。

2. 先行文献

管見の限りでは、〈テデス〉の初出は、京都版洒落本『千歳松の色』（嘉永6年（1853年）頃）である。辻（2009）に『千歳松の色』では作品内に「テ指定」が3例、「テ指定+丁寧語」が「していてずす」の1例あるという記述がある。

藤原（1978）では、昭和期に、福井県若狭 兵庫県播磨、山口県大島で〈テデス〉の使用が確認できる。この〈テデス〉について、藤原（1978）はもともとテジャ・テヤ式の言い方をしていたものが「対他意識の発展拡充」と「共通語化」によってテデス式の言い方もするようになったと言及している。〈テデス〉が発生した地域は全てテジャ・テヤが盛んに用いられる地域である。

全国の方言の待遇表現を70代のその土地の生え抜きの女性にインタビュー形式で調査した、方言研究ゼミナール（1997）には、兵庫県播磨と山口県全域で使用が見られる。具体的には、兵庫県加東郡滝野町（現在の加東市）（黒崎, 1997）・揖保郡新宮町（現在のたつの市）（山口, 1997）・山口県徳山市（現在の周南市）（中川, 1997）・山口市（時見, 1997）・萩市（岡野, 1997）で〈テデス〉が見られる。

○アシタ オッテデッシャロ カー。(70代女性→親しい女性の友人)

森（1951）に、明石市と隣接する兵庫県神戸市垂水区伊川谷町（現在の神戸市西区伊川谷町）で「今本を読んどってです」の例が見られる。

広島大学方言研究会（1959）では、広島県東城町（現在の広島県庄原市）でテ敬語の一種として〈テデス〉を用いると記述がある。

○ムカシノ コトー ヨー オボエトッテデス。(中年女性→青年男性)

中島（1972）において、兵庫県加古郡北部（現在の兵庫県加古郡稲美町）で〈テデス〉の使用があることが明示され、例文として「おってです」が挙げられている。

以上、昭和期に〈テデス〉の実例が見られる地域は、福井県若狭、兵庫県播磨、広島県備後、山口県周防、山口県長門の5地域である。

尚、テ敬語には、上方・西日本地域と江戸/東京地域の2地域について言及があったが、江戸/東京地域の〈テデス〉については、管見の限り見られない。

3. 調査方法

(1) 『千歳松の色』

管見の中で〈テデス〉の初出例が見られる、嘉永6年頃に書かれた京都版洒落本『千歳松の色』を精読する。近世末期の〈テデス〉について、その特徴を知ることを目的に調査する。

(2) 青空文庫

全文検索システム「ひまわり」を用い、「青空文庫」パッケージ内「日本文学／小説」を用いて青空文庫内の小説を資料に〈テデス〉の使用について調べる。青空文庫を資料として用いた村中（2016）を参考に、方言資料として文学作品を使用することに注意⁽⁴⁾、小説の著者の出身地域と在住経験を加味して調査する。

青空文庫は、著者が著作権を放棄するなどの場合を除き、原則著作権の消滅した範囲の作品を取り扱っていることから、明治期から昭和中期までの小説を言語資料として使用できる。よって、本調査は、明治期から昭和中期の〈テデス〉の使用について小説資料から実態を推測することを目的とする。

検索文字は歴史的仮名遣いと活用で考慮した以下の16通りである。

「てです」「てでし」「てでせ」「てでっ」「てでつ」「てでん」「て、す」「て、し」「て、せ」「て、つ」「て、ん」「て、す」「て、し」「て、せ」「て、つ」「て、ん」

(3) 日本語諸方言コーパス (COJADS)

日本語諸方言コーパスは1977～1985年の方言談話音声をもとにしたコーパスである。本コーパスには2020年3月時点で全国47都道府県62地点のデータが公表されている。本調査の目的は、昭和後期の〈テデス〉の地域的な分布を明らかにすることと、昭和後期〈テデス〉の実例から使用の実態を推測することである。

検索語彙は、「です」の活用から、「てです」「てでし」「てでっ」「てでん」の4通りである。

(4) 地方会議録

地方会議録は、各自治体がウェブサイトで公開する、地方議会の会議を書き起こした会議録である。公開されている期間は、一部の自治体は昭和期から、多くの自治体で情報公開が進められた平成11年以降である⁽⁵⁾。

地方会議録を言語資料として用いることについて、高丸・木村（2010）と木村他（2012）に詳しい。方言研究に関する箇所を要約すると、会議録は文意が変わらない範囲で修正（整文）が加

えられており、原則方言語彙は修正対象であるが、整文担当者が方言であることを知らない「気づかない方言」の調査には有用である。整文の基準が自治体によって違いがある。

本研究では、先行文献で〈テデス〉が多く見られ、筆者の内省を加味して調査可能な「兵庫県」に地域を限定し、兵庫県下の41市町から本会議の公開が確認できなかった香美町を除く40市町の全ての会議録⁽⁶⁾を対象に調査した。〈テデス〉を検索する際には、自治体が公開している検索システムまたは会議録のPDFデータを用いた。検索語彙は「てです」に限定し、検索期間は2019年（平成31年/令和元年）までの公開されている全ての期間とする。本調査では、平成期の兵庫県内の〈テデス〉について、県内の使用地域と使われ方について調査することを目的にする。

4. 調査結果

(1) 『千歳松の色』

『千歳松の色』は嘉永6年（1853年）頃におそらく素人作者による素人板行で制作された京都版洒落本である。東次郎なる若者が祇園新地の歌妓おつるを身請けして、二年後に久しぶりにおつるの家に来た東次郎とおつるの会話で構成されている。〈テデス〉が見られるのは一箇所のみで、第二回の冒頭で隣家から三味線を練習する音が聴こえてくることを東次郎が指摘したことに対するおつるの返答である。

○毎日あの通にさらへをしていてゞすがまことに達者でム升へ（東次郎→おつる）

「です」は前後の文でも断定の助動詞としての使用が見られる。この台詞は東次郎との会話中の隣人についての話題であることから、おつるから隣人への素材敬語である。

『千歳松の色』の調査から、江戸末期に〈テデス〉の使用が見られることがわかる。発言者は「遊郭関係者」であり、女性から男性に素材尊敬用法で使用されている。

(2) 青空文庫

検索しスキャンした結果、39件の〈テデス〉が見られた。素材尊敬用法が25件、対者尊敬用法が14件である。

まず(2).1で、小説内の〈テデス〉の発言者に注目し、発言者の性質や使用場面を地域別に概観する。考察の際には、江戸/東京地域と西日本地域とその他の地域に分類した。江戸/東京地域は17件、西日本地域は14件、その他が8件である。その後(2).2で、動詞と補助動詞・助動詞等の特徴を見る。

(2).1 発言者の性質や使用場面について

(2).1.1 江戸/東京地域

まず、江戸/東京地域の言葉として使用されているのは、10著者の12作品である。江戸語として使用された3例（3作品・3人の著者）は性質が異なるので参考程度に扱い後述する。尚、今回取り扱う小説の著者全員に東京在住経験があるため、江戸/東京地域は著者の出身地等の影響

を考慮しない。

(2).1.1.1 東京地域

〈テデス〉14件の内、素材尊敬用法が13件、対者尊敬用法が1件であり、素材尊敬用法が多い。

東京の言葉として使用された〈テデス〉は、発言者の性質を「書生・上流階級の婦人・使用人・妻・遊郭関係者」の5種類に分類できる。

まず、「書生」は、『日本国語大辞典』によると、「(1) 学業を修める時期にある者。学生。生徒。(2) 他人の家に世話になって、家事を手伝いながら勉学する者。学僕。食客。」とあり、独特の書生言葉が形成されていたという。書生言葉は動詞や形容詞に直接接続する「です」が見られ、共通語の標準的な「です」の用法とは異質のもの⁽⁷⁾とされる。本稿で「書生」として分類した小説の登場人物は、学生や下働きの男性3人の5件である。全て会話に参加していない人物を立てる素材尊敬表現である。

○「——姉さん、篠田さんも其ことを心配してでしたよ」(男性学生→異母姉)(木下尚江『火の柱』)

次に「上流階級の婦人」についてである。土屋(1986)で江戸のテ敬語について女性の使うかなり上品な言葉遣いだとあったが、この「上流階級の婦人」はその流れを汲むと推測できる。どちらも他人の男性に対して、他者を立てる表現である。

○「早苗さんはなにも知らずに、よくお寝(よ)ってですわね。」(緑川夫人→明智小五郎)(江戸川乱歩『黒蜥蜴』)

3つ目の分類は「使用人」である。使用人が主人または来客に使う。3作品で3人の女性の4件の使用が見られる。4件全てが「おっしゃってです」である。

4つ目の分類は「妻」である。2件とも妻が夫に対して夫の関係者(夫の弟と夫の仕事仲間)の話をする場面で用いられる。

○「どこへ行つたろう、疾うに帰つてなければならぬのだが? ——しきりにそういってました。」(妻→夫)(久保田万太郎『春泥』)

最後の分類は「遊郭関係者」である。泉鏡花の『吉原新話』の遊女お組さんが不審な老人を見かけたことを話す際に使用する1件である。

(2).1.1.2 江戸地域

江戸語として使用されたと考えられるものは以下の3件(3作品・3著者)である。

樋口一葉の『別れ霜』は、江戸を舞台にした時代小説で、〈テデス〉は息子から父への対者敬語として使われる。佐々木味津三の『右門捕物帖』も江戸を舞台にした時代小説で、同心が少年

僧に状況を尋ねる台詞で見られる。『粟田口笛笛竹（澤紫ゆかりの咲分）』は三遊亭圓朝作鈴木行三校訂の落語速記資料である。関係の薄い知り合いに対する素材尊敬である。

明治以降の東京地域の発言と3例は、発言者の性質が異なる。これらは、村中（2016）で指摘のある、古めかしさの形容であると考えられる。

(2).1.2 西日本地域

西日本地域の〈テデス〉は14件で、そのうち素材尊敬用法が4件で、対者尊敬用法が10件であり、対者尊敬用法の方が多く使われている。大阪府、石川県、岡山県、山口県と、具体的な出身地は明かされていないが前後に「あかん」・「せん」・「～はる」など明らかな関西地域の方言が見られるものをここでは取り扱う。著者の出身地と在住経験から方言意識も含め調査する。

(2).1.2.1 大阪府

大阪府は、3著者3作品に見られる9件の〈テデス〉である。

水上滝太郎『大阪の宿』は、主人公三田が東京から大阪に赴任し、大阪の下宿旅館で宿泊者や従業員との交流する様子が描かれた小説である。著者は東京出身で大学卒業まで東京都で生活をし、大阪に数年赴任した後に帰京後に『大阪の宿』を執筆していることから、大阪以外の地域方言の影響はほとんどないと考えられる。⁽⁸⁾

- 「今日は大層遅い御歸りですな。何處ぞへ寄つて来てゞしたの。」(女中おつぎ→三田)
- 「社長さん見えてゞすの。ほしたらあちらさんが御出でやしてから御酒だんな。」(仲居→三田)

海野十三『蠅男』は東京の青年探偵帆村が大阪にやっけてきているという設定で東京から大阪にやっけて来た帆村と大阪の住民の対比が描かれている。著者は兵庫県神戸市在住経験があるため神戸方言が混入している可能性がある。しかし、『大阪の宿』と同様に場面が大阪であることが強調されていることから、本稿では大阪方言として扱う。身内尊敬用法の使用が見られる。

- 「そら、どうや。お父つあんかて、やっぱり愕いてでっしゃろ」(娘→父)

谷崎潤一郎の『細雪』に〈テデス〉の使用が1件ある。谷崎潤一郎は東京都で生まれ育ち30歳代中盤で京都に移住し以降京阪神を転々とした。安井（2008）は『細雪』の方言記述について谷崎潤一郎が大阪方言を会話の相手や待遇に応じて巧みに使用していることを明らかにしている。〈テデス〉の使用者は「舞の名手として有名な新町のお婆と云う老妓」とされている。谷崎潤一郎の大阪方言の巧みさを考慮すると、〈テデス〉を老妓が使用していることは意図的だろう。

- 「まあ、こいさんでっか。えらい大きうなってでしたなあ、もう女学校卒業しやはりましたんでっか」(老妓→妙子(女性))

(2).1.2.2 石川県

作品は泉鏡花の『卵塔場の天女』の1作品である。泉鏡花は石川県金沢市で生まれ育ち、作品の舞台が石川県金沢市であるので、作品内の地元の住民の発言は、ネイティブの方言話者である著者の内省が含まれているだろう。〈テデス〉は2件見られ、どちらも身内尊敬的に使用されていることが特徴として挙げられる。

(2).1.2.3 岡山県

作品は、田山花袋『蒲団』である。田山花袋は岡山県には滞在経験はあるが在住経験はない。〈テデス〉は1件見られ、発言者は備中から慣れない東京に出てきた人物である。前後の台詞に「思いますじゃ」や「あるです」などの不自然な指定辞の使用が目立ち、著者が岡山方言に堪能でないであろうことから、この〈テデス〉は、「田舎者」の記号として役割語的に使用されている可能性が考えられる。

(2).1.2.4 山口県

宮本百合子『播州平野』で見られる。著者に山口県の在住は確認できない。

(2).1.2.5 その他の西日本地域

宮本百合子『栄蔵の死』に見られる。著者の関西地方在住は確認できない。

(2).1.3 その他の地域

〈テデス〉使用の発言者のルーツがある地域について、不明なものが2件、東京地域と西日本地域以外ものが6件見られる。

舞台設定について全く明記がないものが1件（宮本百合子作『蚕白石』）、設定からルーツが断定できないものが1件（宮本百合子作『播州平野』）である。

北海道が、2件2作品あり、有島武郎作の小説である（『星座』と『或る女』）。これらは共に札幌農学校が舞台になっている。有島武郎は東京都で生まれ育ち札幌農学校に進学した。2件の〈テデス〉の使用は共に男性の大学生の発言であり、作品内では目立った方言の使用が見られないことから、この2例は東京で見られた「書生言葉」と同質のものであろう。〈テデス〉が『或る女』の地の文で「上品で丁寧な言葉」と評価されていることは特徴的である。

岩手県は、石川啄木の『鳥影』が相当し、ここに一件使用が見られる。著者の出身地である岩手県が舞台の作品であることから、方言には著者の内省が含まれると考えられるが、東京在住経験の影響、または読者への配慮として東京の言葉としての〈テデス〉が混入した可能性がある。女性が知人の男性についてその知人の友人について話す、素材敬語である。

日本国外の地域の場合で使用される〈テデス〉は3作品である。南部修太郎『死の接吻』と岡本かの子『ドヴィル物語』は、「田舎者」を示す、松本泰『日蔭の街』は、「上流階級の婦人」または「田舎者」を示す役割語だと考えられる。

(2).2 動詞と補助動詞・助動詞等の特徴について

青空文庫に登場する〈テデス〉に前接する動詞と補助動詞などを表1・表2から見る。まず、動詞は39件の内、「おっしゃる」が10件、「言う」が7件と「言う」を意味する動詞が圧倒的に多い。行為に関する動詞がほとんどで、心情に関する動詞も見られる。東西の地域別に分類すると、

「おっしゃる」と「言う」の2動詞以外に重複が見られず、明らかに使用動詞が異なることがわかる。

西日本方言として分類した「おっしゃる」は田山花袋『蒲団』に出現するもので、田山花袋は西日本方言が堪能ではなかったことが推測されるため、西日本方言で敬体が使用されている動詞は「見える」の2件のみであると考えられる。西日本方言では、敬体の使用が少なく、江戸/東京の言葉は敬体の使用が多い。

また、補助動詞・助動詞等の使用に関しては、西日本方言では見られないが、江戸/東京の言葉は、補助動詞「お～なさる」が2件、「申す」が1件の、合わせて3件見られた。

これらのことから、江戸/東京地域では、敬意を表す動詞や補助動詞を使用していたが、西日本地域では一般に常体動詞を使用していたことが推測できる。

表1 「青空文庫」の江戸/東京地域の動詞

敬体/常体	動詞	数	数
敬体	おっしゃる	4	7
	お寝る※1	2	
	御寝なる※2	1	
常体	言う	4	10
	心配する	1	
	着る	1	
	待つ	1	
	憤慨する	1	
	話す	1	
	計る	1	

表2 「青空文庫」の西日本地域の動詞

敬体/常体	動詞	数	数
敬体	見える※3	2	3
	おっしゃる	1	
常体	酔う	2	11
	言う	2	
	来る	1	
	なる	1	
	逢う	1	
	遭う	1	
	驚く	1	
	見える※3	1	
	分かる	1	

※1…動詞「お寝る」は、「寝る」の意の尊敬語の古語または方言である。(『日本国語大辞典』)

※2…動詞「御寝なる」は、「寝る」の意の尊敬語の古語である。(『日本国語大辞典』)

※3…動詞「見える」は、「来る」の尊敬語である「見える」と「見る」の可能動詞である「見える」の2つの意味が現れたので、意味ごとに分類している。

(3) 日本語諸方言コーパス (COJADS)

検索しスキミングした結果、テ敬語の〈テデス〉に該当するものは、5件見られた。

○サンジーサンネンホド アスノ タタン ズーサンガ otteデシタ ダケン。(60歳以上の女性→地元の高齢の男性)

○ウツラレタ ソノ イテンノ コトラ oハナシヨtteデスヨ。(73歳の男性→会話相手の女性)

高根県3件、広島県1件、福岡県1件である。素材尊敬用法4件、対者尊敬用法が1件見られた。動詞は「行く」等行為を表すものが4件、存在動詞「おる」が1件である。補助動詞・助動

詞等の使用は「よる」2件と「とる」1件である。補助動詞「よる」は補助動詞「おる」の変化したもので、「動作の進行・継続を示す（『日本方言大辞典』）」語である。「とる」は、助詞「て」に動詞「おる（居）」の付いた「ておる」の変化した連語である。その状態にあるという意を添え、共通語では「…ている」の意味を持つ（『日本国語大辞典』）、進行・継続のアスペクトを表す語である。よって、アスペクトを表す補助動詞等の使用があることがわかる。

(4) 地方会議録

2019年（平成31年/令和元年）までの兵庫県内の地方会議録で見られた〈テデス〉は896件である。会議録において見られたということから、〈テデス〉が「気づかない方言」であることが指摘できる。兵庫県内の使用地域、発言の使用場面、動詞と補助動詞・助動詞等の特徴の順に述べる。

(4).1 兵庫県内の使用地域について

以下の表3は市町別の〈テデス〉数についてまとめたものである。

表3 兵庫県内の市町議会会議録別〈テデス〉数

地域	自治体（会議録公開開始年度）	発言総数	発言者数	地域	自治体（会議録公開開始年度）	発言総数	発言者数	地域	自治体（会議録公開開始年度）	発言総数	発言者数	地域	自治体（会議録公開開始年度）	発言総数	発言者数
中播磨	姫路市 (H11)	0	0	北播磨	加西市 (H13)	63	16	但馬	新温泉町 (H29)	0	0	阪神北	三田市 (H4)	1	1
	福崎町 (H20)	14	6		加東市 (H18)	23	10		香美町 (—)	—	—		猪名川町 (H14)	0	0
	市川町 (H18)	42	5		西脇市 (H8)	207	33		豊岡市 (H17)	0	0		川西市 (H13)	0	0
	神河町 (H25)	7	4		三木市 (H11)	77	16		養父市 (H16)	4	1		宝塚市 (H6)	0	0
	たつの市 (H17)	33	9		小野市 (H1)	2	2		朝来市 (H17)	9	3		伊丹市 (H7)	0	0
西播磨	宍粟市 (H17)	13	7	多可町 (H17)	20	9	丹波	丹波市 (H20)	84	23	阪神南	尼崎市 (H8)	0	0	
	太子町 (H18)	14	6	加古川市 (H13)	6	4		丹波篠山市 (H11)	6	6		西宮市 (S38)	4※	3※	
	相生市 (H8)	0	0	高砂市 (H12)	98	16		淡路市 (H17)	1	1		芦屋市 (H11)	0	0	
	上郡町 (H15)	13	6	明石市 (H15)	49	15		洲本市 (H18)	0	0		神戸	神戸市 (S62)	42※	18※
	赤穂市 (H11)	10	6	稲美市 (H18)	32	15		南あわじ市 (H21)	0	0					
	佐用町 (H17)	8	6	播磨町 (H10)	13	9									

※会議録公開期間に昭和期が含まれる西宮市と神戸市について、西宮市の使用は全てが昭和期、神戸市は全てが平成期の発言である。

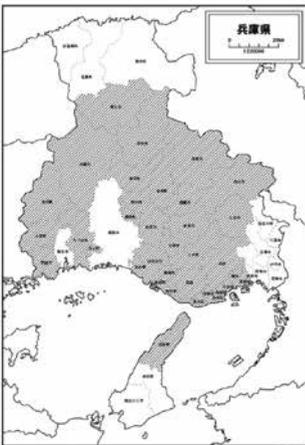


図1 議会会議録で平成期に〈テデス〉が見られる市町

表3を元に、平成期に〈テデス〉が見られる自治体を地図に示したものが左記の図1である。(斜線部が当該地域である。)

先行文献で〈テデス〉が見られる播磨の使用が多いが、テ敬語が見られた丹波、淡路、神戸市⁽⁹⁾にも見られ、播磨に隣接した但馬地方南部も見られる。播磨地域内で使用が見られない「姫路市」・「相生市」は、整文の基準が厳しく、整文の際に〈テデス〉が除外されたと考えられる。

これらのことから、平成期の兵庫県には丹波・播磨・神戸市（摂津地域西部）とその周辺に〈テデス〉が見られることが言える。

(4).2 発言者の性質や使用場面等について

会話の相手や敬意の対象・使用される動詞と後続する助詞等を発言の特性を捉えるパラメータとして使用し、発言の特徴を分析する。

また、発言内で議員が他者の言葉を引用して発言しているものが36件ある。これは、会議内という特殊な場面での発言ではない地域で普段実際に使われている表現が反映されている可能性がある。よって、調査の際には通常の発言と他者の引用の発言を別項に分けて調査する。なお、分析のために人物を以下のように分類した。

分類	詳細
議員等	首長、議員等、職務として議会に参加する人（元議員等も含む）
職員等	市役所・町役場職員、小中高校教師等、議員等以外の公務員
住民	市町の住民（元住民も含む）
公共組織	市町に設置された課や委員会、学校、会館など市内の組織
自治体	市町内の地域や近隣の市町等の自治体
民間組織	企業、NPO等の民間の組織
専門家等	医師、弁護士、大学教授、パイロット、芸人等の専門家と国家・県議員等
任意の人	一般論で語られる、具体的には存在しない人物（例：タブレットにメモを取る人）
その他	分類不可能なもの

(4).2.1 通常の発言

議員が他者の発言を引用したものを除く、議会内部で発言された〈テデス〉は859件で、そのうち素材尊敬用法が450件、対者尊敬用法が409件である。

(4).2.1.1 対者尊敬用法

まず、対者尊敬用法は全て発言者が議員等であり、会話の相手も議員等である。使用される動詞は多い順に「思う」が142件、「考える」が41件と続く。「思うてです（57件）」・「思ってです（33件）」・「思てです（28件）」の「思う＋〈テデス〉」の語形が合計で118件見られる。「思う＋〈テデス〉」の語形は、4件を除いて句読点（24件）、疑問終助詞の「か」（110件）、方言の疑問の終助詞「の」（3件）が後接する。「思う＋〈テデス〉」並びに「思う＋〈テデス〉＋終助詞か」が相手の意見を尋ねる際の定型文化していると考えられる。

- （筆者注：学童保育を）1カ所ふやすことを考えていただきたいんですけども、町長、どない思うてですか。（議員等→議員等）

「考えとってです（29件）」・「考えておってです（11件）」「考えよってです（1件）」の「考える＋（補助動詞など）＋〈テデス〉」の語形が合計41件見られ、多くが疑問の終助詞が後接することから、「思う＋〈テデス〉＋か」と同様、「考える＋（補助動詞など）＋〈テデス〉＋か」も相手の意見を尋ねる際に使われることがわかる。

「思う」・「考える」の次に多く使われる動詞は「言う」(31件)である。[言う+〈テデス〉]で相手の言ったことに確認を取る用法や、[言う+〈テデス〉+逆接の接続詞]で相手の発言を受けて自分の意見を述べる際に使われていることが多い。「言う」の次に多く使われる動詞は「する」で25件である。後接が「ねん」・「やんか」などの念押しや確認をする終助詞が見られ、相手の行為に関して要約して聞き返したり確認したりすることに使用されていることがわかる。

(4).2.1.2 素材尊敬用法

表4 地方会議録(素材尊敬用法)の敬意の対象

敬意の対象	人数(人)
住民	143
議員等	113
民間組織	47
自治体	43
職員等	40
専門家等	34
委員会等	15
任意の人	9
その他	6
合計	450

まず、素材尊敬用法について述べる。素材尊敬用法は議員等が議員等に向けた発言内で、他者を立てる表現である。敬意の対象は表4の通りである。

※その他の内訳は観光客が3件や留学生が1件、ゆるキャラなどのマスコットキャラクターが2件である。

敬意の対象は、住民に対するものが最も多く143件である。次点で議員等が113件である。住民に対する素材尊敬用法が最も多いという結果は、素材尊敬用法の使用に会議内という特殊性を加味しなければならない可能性があるが、職員や専門家、任意の人等への使用が見られることから素材尊敬用法の〈テデス〉は兵庫県に見られると言っていいだろう。

使用されている動詞は「おる」が144件で圧倒的に多い。動詞「おる」は「いる」という意味の方言の存在動詞である。その全てが「おってです」の語形で使用されている。「委員会等」以外の全ての対象に使用が見られる。後接する語も様々で、多数の様々な対象に様々な意図で「おってです」が見られることから、「おってです」の汎用性を見て取れる。

- 「この間お見えになられた方は、パソコンでメモをしてるだけなんやけれどもいうて言う。」
「そういう人おってですな。」(議員等→任意の人)

「おる」に続いて、「言う」が43件、「する」が40件、「やる」が21件と行為を表す動詞が並ぶ。「言う」「言う」ともに後続の語は念押し確認が最も多い。敬意の対象の行為を会話の相手に強調して伝え、自身の発言の補強材料として利用している。

対者尊敬用法ではほとんど見られないが素材尊敬用法で見られる動詞に感情を表す動詞がある。「怒る」、「喜ぶ」等合計13件である。全ての後接が念押し確認であり、主に住民の感情について、会話の相手に提示し自説を補強する。

- その辺を八千代区の区長さんあたり、全てとは言いませんが、ごっつ怒ってっですわ。

(議員等→住民)

(4).2.1 引用文での使用

引用文内の使用は、37件で、そのうち素材尊敬用法が3件、対者尊敬用法が34件見られる。素材尊敬用法の数が少ないが、引用文内で素材尊敬用法が使用されるのは状況を又聞きした場合のみに現れるため、実生活で素材敬語としての使用が少ないことを示さない。

対者尊敬用法は会話の相手が住民に対するものが18件、議員に対するものが14件と際立って多い。それぞれに発話者を確認し、実際に使用される状況を推測する。

住民に対して、職員等・民間団体・専門家が〈テデス〉を使用している例は10件ある。〈テデス〉が日常生活で市役所・町役場や企業の窓口の職員、医師等から住民がサービスを受ける場面で多く使用されることがわかる。

○何か果物でもつくりますよというたら、ああこの人が手放すというて言ようってですから、あとやったらどいなですかとか、窓口を全部そこがある程度やってるという。(民間組織→住民)

住民に対して住民が使用する場合が4件見られ、日常会話で〈テデス〉が対者敬語として使用されていることが推測できる。

(4).3 動詞と補助動詞・助動詞等の使用

表5 地方会議録に見られる補助動詞・助動詞等の使用件数

補助動詞・助動詞等	使用件数
(使用無し)	363
とる	393
よる	63
おる	45
くれる	29
れる・られる	27
くださる	1
もらう	1
しまう	1
たる	1
合計(重複使用を含む)	924

敬体の動詞が7件、常体の動詞が889件で、〈テデス〉に前接する動詞はほとんどが常体である。補助動詞・助動詞等については、896件のうち533件が補助動詞・助動詞等の使用があり、かなり盛んに使用されていることがわかる。8種類の補助動詞・助動詞等が使用されており、2種類が組み合わせて使用されているものが28件見られる。

補助動詞の使用が無いものより、「とる」の使用があるものが多く、「とる」・「おる」・「よる」の3つの類似した語が多数を占めている。これらは、全て存在動詞の「おる」から派生した進行・継続アスペクトを表す語である。

○今度は古い駅のとこへ行っというたら、必ずボランティアの駅長がおって頑張っというてです。(議員等→住民)

「よる」はアスペクトに加えて、関西中央部で「軽い軽べつを表したり、意味を強めたりする」意味が付加される場合がある。この下向きの待遇を示す用法を「卑語」と呼ぶ。「よる」の卑語

としての使用を、先行文献を用いて簡潔に述べると、「よる」は、アスペクトの意味のみを持つ地域と待遇の意味をも持つ地域があり、兵庫県内の待遇表現の「よる」の使用地域は丹波と神戸市以西だとされてきたが、20年ほど前から播磨でも使用が見られる。本調査で「よる」が見られた地域は播磨と丹波のみであるので、本調査で見られた「よる」は卑語としての用法が含まれると考えられる。

60件の「よる」のうち卑語としての意味が付加していると考えられているものは、12件見られた。以下は一例である。

○何回聞いても同じこと言いよってですわ、県のレベルよりちょっと上やと。それでは私が質問しよる意味がないんでね、(議員等→職員等)

また、進行・継続のアスペクトが必要でない場面で「おる」「とる」「よる」が使われる場合がしばしばみられる。例えば、補助動詞・助動詞等の使用が無い「言うてです」は30件、「おる(1件)」「とる(24件)」「よる(21件)」が含まれるものは36件と、本来アスペクト表現が必要でないところでも「おる」等が見られ、アスペクトを表す語、特に「とる」が無意味化、形骸化していることが推測される。

○うまく表現しとってですけど、簡単に言えば(中略)こういうことやないかと思うんですが、(議員等→議員等)

また、助動詞の「れる・られる」が27件見られる。「れる・られる」の意味を文脈から判断すると、尊敬の意味での使用が26件、受身の意味での使用が1件である。他に、授受表現・アスペクトを表すものが見られる。

5. 考察

4資料での調査結果を踏まえて、5つの観点で考察する。

5.① 使用されている地域

『千歳松の色』で、上方での使用が見られる。

「青空文庫」では、西日本地域においては著者の方言使用意識等も加味した結果、大阪府と石川県加賀で使用がされていた可能性が大いにある。また、東京都での使用も小説内だけでなく実際での使用が反映された結果であると推測される。

「日本語諸方言コーパス」では、現在の島根県奥出雲町、広島県広島市、福岡県北九州市で実例が見られた。

兵庫県会議録から、兵庫県丹波・播磨・神戸市とその周辺に〈テデス〉が見られることが明らかになった。

以上のことから、昭和期に〈テデス〉の実例が観測されている地域は、福井県若狭、兵庫県播磨、広島県備後、安芸、山口県周防、長門、島根県出雲、福岡県豊前の8地域である。加えて、石川県加賀でも〈テデス〉が使用されていた可能性が高い。また、兵庫県においては昭和期のテ敬語の使用範囲とほぼ同じ地域で平成期の〈テデス〉の使用が見られる。

5.② 発言者の性質（性別や所属する集団等）

『千歳松の色』の発言者は、元歌妓の女性である。

「青空文庫」の調査では、江戸/東京地域は、「書生」・「上流階級の婦人」・「使用人」・「妻」・「遊郭関係者」に分類できる。西日本地域は、大阪では一般の住民が男女問わず使用する言葉として使用されていたようだ。また、身内尊敬的な使用が多くみられ、その全てが女性の発言であることから、家庭内の女性の言葉としての側面が見える。また、「田舎者」等を表す記号として役割語的に使用されるものも見られる。

「日本語諸方言コーパス」では、60代以上の男女に使用が見られる。

「地方会議録」では、男女ともに使用が見られる。引用文内で住民同士の会話の引用として発言された例からも、男女どちらも使用が見られる。

以上のことから、江戸/東京地域においては、明治期から昭和中期にかけて特定の集団内で使用された語と言える。西日本地域は、基本は男女ともに使用が見られる言葉だと見られるが、家庭内で女性使用する言葉であるというイメージが垣間見える。西日本方言として、他地域から「田舎者」のイメージもあったと考えられる。また、江戸時代後期から明治期にかけて、江戸/東京地域と西日本地域とともに「遊郭関係者」の使用する言葉であるイメージが一定数あったと考えてよいだろう。

5.③ 素材尊敬用法・対者尊敬用法のどちらで使用されているか

『千歳松の色』では、素材尊敬用法としての使用がされている。

「青空文庫」では、江戸/東京地域では、ほとんどが素材尊敬用法で使用されており、対者尊敬は江戸の時代劇での使用であるから、東京で使用された〈テデス〉は素材尊敬用法であったと考えてよいだろう。西日本方言では、素材尊敬用法と対者尊敬用法の両方が使用されているが対者尊敬用法の方が多く見られる。対者尊敬用法は大阪府での使用に多く、これは明治期の大阪で待遇値が下がり対者尊敬用法の使用が増えた（金沢1992）ことと無関係ではないだろう。

「日本語諸方言コーパス」でも、素材尊敬用法と対者尊敬用法の両方が観察できた。素材尊敬用法の数が多いが、これは談話収録という特殊な状況と談話のトピック等の影響が考えられる。

地方会議録では、素材尊敬用法と対者尊敬用法の両方がほぼ同数確認できる。地方議会会議内という特殊性を加味しても、素材尊敬用法が日常的に使用されていることが推測できる。

以上から、東京の言葉としての〈テデス〉は、ほとんどが素材尊敬用法であったが、西日本方言としての〈テデス〉は素材尊敬用法と対者尊敬用法の両方の意味を明治期の時点で持っており、今もそれを継続しているものと考えられる。

5.④ 使用される動詞の傾向

『千歳松の色』で使用されている動詞は「する」である。

「青空文庫」で見られる動詞は、江戸/東京地域と西日本地域でもに行為に関する動詞が多いが、心情に関する動詞の使用も見られる。江戸/東京地域においては、「おっしゃる」・「言う」と「言う」を意味する動詞が多数を占め、また、動詞の敬体を使用するものが多い。西日本地域では、際立って多く使われる動詞は見られず、常体の使用が多い。

「日本語諸方言コーパス」では、存在動詞「おる」が1件、行為に関する動詞が4件見られる。敬体は1件である。

地方会議録では、両用法に共通して行為を表す動詞がよく見られるが、素材尊敬用法として存在動詞「おる」が大量に見られ、心情を表す動詞も見られる。対者尊敬用法で盛んに見られる動詞は「思う」「考える」である。また、常体が圧倒的に多い。

これらのことから、〈テデス〉で使用される動詞は多くは行為を表す動詞だが、心情を表す動詞も含まれ、西日本地域においては存在動詞「おる」の使用が目立つ。西日本地域では基本的に敬体をあまり使用しないが、江戸/東京地域では盛んに使用があったことは、江戸/東京言葉としての〈テデス〉が独自に発展したことを示唆する。

5.⑤ 補助動詞・助動詞等が使用されているか否か、また使用されている場合の傾向

『千歳松の色』では、補助動詞・助動詞等の使用は見られない。

「青空文庫」では、江戸/東京地域で尊敬・謙譲の補助動詞の使用が見られる。西日本地域では補助動詞・助動詞等の使用は全く見られない。

「日本語諸方言コーパス」では、5件中3件に進行・継続のアスペクトを表す「よる」・「とる」の使用が見られた。

地方会議録では、補助動詞・助動詞等を使用するものが半数以上存在し、その多くが進行・継続のアスペクトを表す「とる」・「おる」・「よる」であるが、「とる」はアスペクトの意味を失い、無意味化・形骸化している可能性がある。卑語の「よる」や尊敬の助動詞「れる」・「られる」、授受表現の使用も見られ、補助動詞・助動詞等で〈テデス〉に待遇のバリエーションをつけて使用していると考えられる。

以上のことから、明治期から昭和中期までの江戸/東京地域においては、高く遇する待遇と〈テデス〉が接続する例が多い。西日本地域は、昭和後期からアスペクトを表す存在動詞「おる」を元にした語の使用が盛んに見られるが、平成期の兵庫県においては「とる」は無意味化している可能性がある。また、補助動詞・助動詞等を盛んに用いることで尊敬の助動詞・卑語・授受表現等様々なバリエーションを産み出している。

6. まとめ

本稿では、京都版洒落本「千歳松の色」、青空文庫、日本語諸方言コーパス、地方会議録の4資料を用いて、尊敬または上向きの待遇を表すテ敬語の一種〈テデス〉を通時的に概観した。以下結論である。

・指定辞「です」の黎明期⁽¹³⁾である近世後期に遊郭関係者の使用が描かれ、明治期まで地域を問

わずそのイメージが存在していたようだ。⁽¹⁴⁾

- ・江戸/東京地域では、明治期から昭和中期にかけて「書生」・「上流階級の婦人」等限られた階層で、素材尊敬のみの用法で動詞や補助動詞等の敬体を伴う語として独自に発展した。
- ・上方・西日本地域では、男女ともに使用する語として親しまれたが、家庭内の女性が使用する語であるというイメージが見える。素材尊敬用法・対者尊敬用法の両方で使用されており、動詞は常体が好まれる。存在動詞「おる」から派生した語と接続が多い。昭和期に〈テデス〉が使用されていたと考えられる地域は、福井県若狭、石川県加賀、兵庫県播磨、広島県備後、安芸、山口県周防、長門、島根県出雲、福岡県豊前である。

平成期は兵庫県に限った調査では、全国的に素材尊敬用法が衰退する中で現在も〈テデス〉は素材対者両用法で「気づかない方言」としてフォーマルな場で使用されており、また、補助動詞・助動詞等を用いて多彩なアスペクトや待遇の使用が見られる。⁽¹⁵⁾

参考文献

- 浅川哲也 (1998) 「動詞・助動詞承接の「です」について - 明治大正期を中心に -」『国語研究』61号, 國學院大學国語研究会
- 浅川哲也・竹部歩美 (2014) 『歴史的变化から理解する現代日本語文法』おうふう
- 楳垣実 (1955) 『船場言葉』近畿方言学会
- 遠藤邦基 (1982) 『京都府の方言』『講座方言学7 近畿地方の方言』国書刊行会
- 岡田統夫 (1968) 「西部方言における『先生が、来テジャ(ダ・ヤ)』などの『テ敬語法』について」『尾道短期大学研究紀要 (17)』尾道短期大学
- 岡野信子 (1997) 「山口県萩市方言の待遇表現」『方言資料叢刊』方言研究ゼミナール
- 奥村三雄 (1951) 「敬語表現の一形式」『近畿方言 (10)』近畿方言学会
- 金沢裕之 (1992) 「明治期大阪語の『テ敬語』表現」『地域言語 (4)』地域言語研究会
- 鎌田良二 (1956) 『播州赤穂方言の研究語法編』兵庫県方言学会
- _____ (1958) 「阪神間方言語法——中学生の場合」『甲南女子短期大学論叢』甲南女子短期大学
- _____ (1962) 「尊敬表現『て』について」『季刊文学・語学』第二十五号, 全国大学国語国文学会
- _____ (1979) 『兵庫県方言文法の研究』桜楓社
- _____ (1998) 「兵庫県の方言」『講座方言学7 近畿地方の方言』国書刊行会
- 神鳥武彦 (1982) 「広島県の方言」『講座方言学8 中国・四国地方の方言』国書刊行会
- 川本栄一郎 (1983) 「石川県の方言」『講座方言学6 中部地方の方言』国書刊行会
- 神部宏泰 (1982) 「島根県の方言」『講座方言学8 中国・四国地域の方言』国書刊行会
- 菊地康人 (2008) 「敬語の現在—敬語史の流れの中で、社会の変化の中で」『文学』9-6, 岩波書店
- 岸江信介・中井精一・鳥谷善史 (2009) 『大阪のことは地図』和泉書院

- 木村泰知・渋木英潔・高丸圭一・乙武北斗・森辰徳（2012）「地方議会会議録コーパスの構築とその利用」『人工知能学会全国大会論文集』26, 人工知能学会
- 京都版洒落本編集委員会（1988）『洒落本大成』第二十九卷, 中央公論社
- 金水敏（2010）「『敬語優位から人称性優位へ』再考」『語文』92・93, 大阪大学国語国文学会
- 工藤真由美（2002）「京阪奈を中心とする地域のヨル・トル形式調査の目的・方法と結果の概要, 方言における動詞の文法的カテゴリーの類型論的研究」『平成13年度科学研究費基盤研究』（B）（1）日本学術振興会
- 黒崎良昭（1997）「兵庫県加東市滝野町方言の待遇表現」『方言資料叢刊』方言研究ゼミナール
 _____（2005）「関西弁のいま・むかし—敬語表現について—」『園田学園女子大学論文集』39, 園田学園女子大学論文編集委員会
- 国立国語研究所（1966）『日本言語地図』第1集, PDF版（最終閲覧2021/01/11）
 _____（2006）『方言文法全国地図』第6集, PDF版（最終閲覧2019/11/29）
- 小西いずみ・井上優（2013）「富山県西地域における尊敬系『～テヤ』——意味・構造の地域差と成立・変化過程」『日本語の研究』9巻3号
- 下野雅昭(1983)「富山県の方言」『講座方言学6 中部地方の方言』国書刊行会
- 高丸圭一・木村泰知（2010）「栃木県の地方議会会議録における整文についての基礎知識—本会議のウェブ配信と会議録との比較—」『宇都宮共和大学都市経済研究年』10, 宇都宮共立大学
- 滝浦真人（2005）『日本語の敬語論—ポライトネス理論からの再検討—』大修館書店
- 塚原鉄雄（1956）「鎌倉室町時代の敬語」『解釈と鑑賞』至文堂
- 辻加代子（2007）「近世京都語資料に現れた待遇表現形式チャットに関する覚書」『日本語の研究』第三巻1号, 日本語学会
 _____（2009）『「ハル」敬語考』ひつじ書房
- 土屋信一（1986）「浮世風呂・浮世床の敬語二題—『なはる』と『てでございます』と—」『香川大学国文研究』10, 香川大学国文学会
- 時見隆一（1997）「山口県山口市方言の待遇表現」『方言資料叢刊』方言研究ゼミナール
- 友定賢治（1997）「岡山県新見市坂本方言の待遇表現」『方言資料叢刊』方言研究ゼミナール
- 中井精一（2002）「西日本言語域における畿内型待遇表現の特質」『社会言語学』5（1）, 「社会言語学」刊行会
- 中川健次郎（1982）「山口県の方言」『講座方言学8 中国・四国地方の方言』国書刊行会
 _____（1997）「山口県徳山市大字大島方言の待遇表現」『方言資料叢刊』方言研究ゼミナール
- 中島信太郎（1972）『播磨加古郡北部方言記録』武蔵野書院
- 彦坂佳宣（1986）「近世後期上方語資料としての雑排」『文芸研究』107, 日本文芸研究会
- 平山輝男・神鳥武彦（1998）『日本のことばシリーズ34, 広島県のことば』明治書院
- 平山輝男・真田信治（1998）『日本のことばシリーズ16, 富山県のことば』明治書院

- 平山輝男・陣内正敬（1997）『日本のことばシリーズ40, 福岡県のことば』明治書院
- 平山輝男・友定賢治（2008）『日本のことばシリーズ32, 高根県のことば』明治書院
- 藤原与一（1978）『昭和日本語方言の総合的研究,第一巻』武蔵野書院
- 松村明（1990）「明治初年の洋学会話書における助動詞『です』とその用法」『近代語研究第八巻』武蔵野書店
- 虫明吉治郎（1982）「岡山県の方言」『講座方言学8 中国・四国地方の方言』国書刊行会
- 村上敬一（2001）「神戸市とその周辺域における若年層のアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究」『平成11年度～12年度科学研究費基盤研究（B）（1）研究成果報告書』日本学術振興会
- 村上讓（2006）「近世前期上方における尊敬語表現『テ+指定辞』の成立について」『日本語の表現』第二巻4号, 日本語学会
- 村中淑子（2015）「明治小説にみる京都方言－清水紫琴「心の鬼」（明治30年）を資料として」『現象と秩序』2, 現象と秩序企画編集室
- _____（2016）「大阪におけるテ敬語の消失—大正・昭和初期の小説を資料として—」『現象と秩序』5, 現象と秩序企画編集室
- 森俊秀（1951）『伊川谷方言集』森俊秀
- 森山由紀子（2010）「現代日本語の敬語の機能とポライトネス——「上下」の素材敬語と「距離」の聞き手敬語」『同志社女子大学日本語日本文学』22, 同志社女子大学日本語日本文学会
- 矢野準（1978a）「近世後期上方語資料としての上方板洒落本類」『語文研究（41）』
- _____（1978b）「近世後期京坂語に関する一考察—洒落本用語の写実性—」『静岡女子大学研究紀要』12, 静岡女子大学
- 山口豊（1997）「兵庫県揖保郡新宮町下笹方言の待遇表現」『方言資料叢刊』方言研究ゼミナール
- 安井寿枝（2008）「谷崎潤一郎の作品における関西方言の変遷：卍、蓼食ふ虫、蘆刈、春琴抄、夏菊、猫と庄造と二人のをんな、細雪」『甲南大學紀要文学編』甲南大学文学部
- 山崎久之（1963）『国語待遇表現の体系の研究, 近世編』武蔵野書院
- 山本淳（1990a）「近畿待遇法の一形式『テジャ』について」『國學院雑誌（91（4））』
- _____（1990b）「江戸戯作小説に現れる『テ+指定』待遇表現をめぐって」『國學院雑誌』91（11）國學院大學
- 湯沢幸吉郎（1936）『徳川時代言語の研究, 上方編』風間書房
- _____（1954）『江戸言葉の研究』明治書院

使用辞書

- 北原保雄（2003）『日本国語大辞典』第二版, 小学館
- 小学館（1994）『日本大百科全書』小学館
- 小学館（2012）『デジタル大辞泉』小学館
- 徳川宗賢（1989）『日本方言大辞典』小学館

使用コーパス

国立国語研究所 (2020) 『青空文庫』 パッケージ「日本文学／小説」

全文検索システム「ひまわり」 vir.1.6.8. (最終閲覧2021/01/01)

国立国語研究所 (2020) 「日本語諸方言コーパス」

オンライン版・コーパス検索アプリケーション「中納言」 (最終閲覧2020/12/29)

<https://chunagon.ninjal.ac.jp/cojads/search>

使用ウェブサイト

全て最終閲覧2021/01/12

相生市議会会議録 <https://www.kensakusystem.jp/aioi-s/sapphire.html>

明石市議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/akashi/index.html>

赤穂市議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/ako/>

朝来市議会会議録 <https://www.voicetechno.net/MinutesSystem/Asago/>

芦屋市議会会議録 <https://ssp.kaigiroku.net/tenant/ashiya/SpTop.html>

尼崎市議会会議録 <https://ssp.kaigiroku.net/tenant/amagasaki/SpTop.html>

淡路市議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/awaji/>

伊丹市議会会議録 <http://itami.gijiroku.com/voices/index.asp>

市川町議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/ichikawa/>

猪名川町議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/inagawa/>

稲美町議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/inami/>

小野市議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/ono-c/sapphire.html>

加古川市議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/kakogawa/index.html>

加西市議会会議録 <https://ssp.kaigiroku.net/tenant/kasai/SpTop.html>

加東市議会会議録 <https://ssp.kaigiroku.net/tenant/kato/pg/index.html>

神河町議会会議録 http://www.town.kamikawa.hyogo.jp/soshiki/3-1-0-0-0_2.html

上郡町議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/kamigori/index.html>

川西市議会会議録 <https://ssp.kaigiroku.net/tenant/kawanishi/pg/index.html>

神戸市議会会議録 <http://www.city.kobe.hyogo.dbsr.jp/index.php/>

佐用町議会会議録 https://www.town.sayo.lg.jp/cms-sypher/www/gov/result.jsp?life_genre=157

三田市議会会議録 <https://ssp.kaigiroku.net/tenant/sanda/pg/index.html>

宍粟市議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/shiso/index.html>

新温泉町議会会議録 <https://www.town.shinonsen.hyogo.jp/p/list/C2608/>

洲本市議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/sumoto/>

太子町議会会議録 <http://www.town.hyogotaishi.lg.jp/matijyouhou/tyougikai/honnkaigi/index.html>
高砂市議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/takasago/index.html>
多可町議会会議録 <https://ssp.kaigiroku.net/tenant/taka/pg/index.html>
宝塚市議会会議録 http://takarazuka.gijiroku.com/voices/g08v_view.asp?Sflg=31
たつの市議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/tatsuno/>
丹波篠山市議会会議録 <http://kensaku.sasayama.jp/index.html>
丹波市議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/tamba/>
豊岡市議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/toyooka/>
兵庫県ウェブサイト <https://web.pref.hyogo.lg.jp/index2.html>
西宮市議会会議録 <http://nishi.gijiroku.com/>
西脇市議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/nishiwaki/index.html>
播磨町議会会議録 <http://www.kensakusystem.jp/harima/>
姫路市議会会議録 <http://himeji.gijiroku.com/index.asp>
福崎町議会会議録 <http://www.town.fukusaki.hyogo.jp/000000984.html>
三木市議会会議録 <https://ssp.kaigiroku.net/tenant/miki/pg/index.html>
南あわじ市議会会議録 <https://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/site/gikai/kaigiroku.html>
養父市議会会議録 <http://www.db-search.com/yabu-c/index.php/>

注記

- (1) 『日本国語大辞典』・『日本方言大辞典』に方言で敬意を表す助詞であると記述されている。
- (2) 指定辞は断定の助動詞のことを指す（浅川・竹部, 2014）。
- (3) 「テ+指定辞」（奥村, 1951, 村上, 2006）、「テ」敬語法（岡田, 1968）、「て」敬語法（藤原, 1978）、テヤ敬語（鎌田, 1979）、テ敬語（金沢, 1992）等研究者によって様々な呼称が見られるが、本稿ではテ敬語と呼ぶ。
- (4) 方言資料として文学作品を用いることについて、村中（2015）によると、自然会話とその文字化資料が得られない場合文学作品をデータとすることは有効であるが、（1）作品の読み手に配慮して方言の特徴を減らしている、（2）分かりやすい人物造形のためにステレオタイプ化された方言を使用する、（3）読みやすさのために音声的特徴にはない文章語に近づけた形を使用する、の3点で文学作品は実態に即していない場合があり、取り扱いに注意が必要である。
- (5) 木村・洪木・高丸・乙武・森（2012）
- (6) 神戸市と福崎町で小学生が地方行政を体験する目的で行われる「子ども会議」を除く。
- (7) 『日本国語大辞典』
- (8) 村中（2016）でも同様の理由で大阪方言資料として用いられている。
- (9) 鎌田（1958）でテ敬語とハル敬語の境界が「神戸市東灘区御影町と同区本山町」であると

明らかにされたが、市町単位に変換すると神戸市以西がテ敬語、芦屋市以东がハル敬語の地域と言える。本調査では、鎌田（1958）のテ敬語使用地域と会議録で〈テデス〉が見られる地域は、合致した。

- (10) 尚、引用された発言はあくまで引用であって、原文の発言時の実態を反映しているものではないことにも十分に注意する。
- (11) 中井（2002）、工藤（2002）
- (12) 村上（2001）
- (13) 浅川（2014）
- (14) 松村（1990）に江戸時代末期の人情本資料では「です」の使用が遊女・芸妓等に多いことが指摘されているため、〈テデス〉だけでなく「です」の特徴が反映されていると考えるべきだろう。
- (15) 菊地（2008）、金水（2010）、滝浦（2005）、森山（2010）他

謝辞

本稿を作成するにあたり、指導教授の浅川哲也先生に熱心なご指導を賜りました。また、ゼミナールの皆様にはたくさんのご指摘をいただきました。深く感謝申し上げます。

（みやざき・はるか 東京都立大学 都市教養学部生）